

新約聖書の中の福音書はどの福音書も、十字架に架けられて死んだナザレのイエスこそがメシアなのだと信じる者たちとなったイエスの弟子たちの宣教によって誕生した、最初の教会の信仰の中で、その信仰を伝えてゆくために書かれた書物です。これが、今のわたしたちの教会の福音書についての新しい理解です。わたしたちが慣れ親しんでいるイエス・キリストというお名前は、十字架に架けられて死んだナザレのイエスこそがメシア、キリストなのだという、イエスの弟子たちの宣教を生み出し、今や世界中に広まっているキリスト教の信仰の原点を指し示す、その信仰の中心的メッセージなのです。御存知のように、キリストという呼び名は、旧約聖書のメシアということばのギリシャ語への翻訳です。旧約聖書の信仰の伝統の中に生きていたイエスの弟子たちは、イエスの弟子として生きたその体験を通して、ナザレのイエスこそがメシアであると信じたのです。イエスの弟子たちから始まった最初の教会は、すでに流布していた旧約聖書のギリシャ語訳の中のキリストという呼び名によって、ナザレのイエスこそがメシアであるという信仰を、当時のギリシャ語文化圏の人々に宣べ伝えて行ったのです。こうして、キリスト教の信仰はユダヤの地を超えて、世界に広がって行ったのです。

福音書という書物はイエスの弟子たちの宣教から始まった最初の教会の信仰を伝える書物であると理解することが出来たら、今日わたしたちが聴いたマルコ福音書の箇所は、マルコ福音書の中でも非常に重要な箇所であることが分かるのではないかと思います。何故なら、ここでイエスは弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と尋ねられ、それに対してペトロは弟子たちを代表して、「あなたはメシアです」と答えているからです。ナザレのイエスをメシアと信じる教会の信仰がここで始めてはっきりと宣言されているからです。

しかし、今日の福音の箇所の重要性は、イエスがメシアであるという信仰がペトロの口を通して始めて宣言されているということだけにあるわけではありません。今日の福音の箇所がわたしたちのキリスト教の信仰にとって大切なのは、ペトロが弟子たちを代表して宣言した「あなたはメシアです」という信仰宣言に答えて、弟子たちが信じたメシアであるイエスは、どのようなメシアであるかをイエスご自身がここで初めて明らかにしておられる点にあります。弟子たちが信じたメシアであるイエスは、必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者といった当時のユダヤの指導者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっているということが、ここで初めてイエスの口によって

明らかにされています。福音書がその全体を通して告げているメシアであるイエスは、今日の福音の箇所以降、今日の福音の中でイエスが明らかにされたとおりに、十字架の死が待ち受けているエルサレムを目指して歩み行かれ、当時のユダヤの指導者たちによって十字架の刑引き渡され、十字架に架けられて死んで行かれたのです。そのようなイエスが何故メシアであると弟子たちが信じることができたのかと言えば、十字架に架けられて殺されたイエスは、今日の福音の中でイエスご自身が明らかにされているように、三日目に復活して弟子たちに現れてくださったからです。

今日の福音の中のペトロとその仲間の弟子たちのイエスに対する信仰告白はまだ完全なものにはなってはいません。十字架の上に死んで墓に葬られたイエスが、弟子たちのもとに戻って来て、その復活のお姿を示してくださった時、弟子たちは自分たちが信じるメシアであるイエスがどのようにしてメシアであるのかということを知ることが出来たのです。イエスの復活の後に弟子たちが宣べ伝えたメシアであるイエスはこのような道をとって、つまり十字架の死と復活を通してメシアであることを明らかにされたメシアとしてのイエス・キリストです。そして、そのようなイエス・キリストこそが、わたしたちが信じているわたしたちの主イエス・キリストなのです。今日の福音はそのようなイエス・キリストのみ後に従って歩むように、わたしたちに呼びかけています。

先週の日曜日に聴いた福音の中で、イエスは「エッファタ」という呼びかけをもって、耳が聞こえず舌の回らない人を癒してくださったことが語られていました。マルコ福音書の文脈においては、先週の福音と今日の福音は意味をもって繋がれているのです。わたしたちもまた洗礼によっていただいたイエスの「エッファタ」という力強いみことばによって、ペトロとその仲間たちのように、イエスこそメシアであるとの信仰を言い表すことが出来るようになったのです。

けれども、今日の福音のペトロへのイエスの戒めのことばが示しているように、わたしたちの耳がさらに開かれ、わたしたちが表明しているイエス・キリストへの信仰がどのようなメシアとしてのイエス・キリストへの信仰であるか悟らせていただけよう願わなくてはなりません。ペトロとその仲間たちが信じ、彼らの宣教を通してわたしたちが受け入れ信じているメシアであるイエス・キリストは、わたしたちを十字架の道に招くメシアなのです。何故なら、わたしたちが信じているイエス・キリストは、十字架の死と復活において御自分がメシアであることを示されたメシア、イエス・キリストだからです。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わた

しに従いなさい。」これが、わたしたちが信じたメシア、イエス・キリストのわたしたちへの招きのことばです。十字架に架けられて死んだイエスをメシアとして信じる者たちは、この招きに答えてメシアであるイエス・キリストの後につき従って行くことを求められているのです。このようなイエスの招きに従うことを確かに容易なことではありません。けれども、この招きを受け入れることが出来るなら、わたしたちにとって、わたしたちのメシア、イエス・キリストに従うことはそう難しいことではなくなるはずです。何故なら、イエス・キリストの後に従って行くために、わたしたちは何か特別なことをするように求められているのではないことが分かってくるからです。イエスの後につき従う道は、わたしたちが日々経験しているわたしたちにとって十字架と思える苦しみや困難を、心の耳を開いて、十字架のイエスのわたしたちへの招きとして受け止めることによって開かれる道だからです。わたしたちがそのように受け止めることを、十字架のイエスのもとで学ぶことが出来る時、わたしたちがこの世で経験するすべての苦しみと悩みは、わたしたちのメシア、イエス・キリストに従う道となります。そのことによって、わたしたちはわたしたちを脅かしているすべての不安から解放されている自分を見出すことが出来ることでしょう。このようにして、わたしたちはわたしたちが信じメシア、イエス・キリストによって、この世の苦しみの只中で、救われていることを悟ることが出来ることでしょう。何故なら、わたしたちはまさにわたしたちが経験するすべての苦しみの中で、それがイエスをメシアと信じるわたしたちの背負うべき十字架であることを悟り、その苦しみを受け入れることによって、それが十字架の死を越えて復活されたイエスの後に従って歩むべき道であること悟ることが出来るからです。これこそが、十字架のメシア、イエス・キリストがこの世を生きる私たちに与えてくださる救いなのです。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」。このみことばを、わたしたちが信じるメシア、イエス・キリストの招きのみことばとして受け止めることが出来る時、わたしたちは意味の見えないすべての苦しみの中で、イエスに従って復活のいのちに至る道を見出すことが出来るのです。今日もこのミサの中でわたしたちを招いておられる十字架のメシア、イエス・キリストのみことばがわたしたちの心の耳を開き、そのようにして私たちの萎えた足を強め、イエスに従って歩む力を与えるものとなるよう祈り求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高